

# 呉記念病院回復期リハビリテーション 病棟入院患者の口腔内状態 実態調査その1 ～OHAT(ORAL HEALTH ASSESSMENT TOOL)を用いたアセスメント～

栗原 茂 歯科医師<sup>1)</sup> 水野 恵 看護師<sup>1)</sup>

牧野路子 歯科医師<sup>2)</sup> 内藤 徹 歯科医師<sup>2)</sup>

医療法人社団有信会 呉記念病院<sup>1)</sup>、福岡歯科大学 高齢者歯科学分野<sup>2)</sup>






















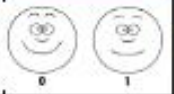

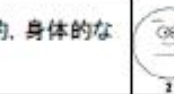

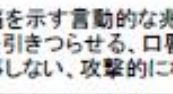

## 諸言

近年、回復期病棟への歯科介入が注目されている。入院中の口腔管理のためには病棟スタッフとの情報共有が必須である。病棟スタッフでも容易に評価ができる指標のひとつとしてOHATがある。

今回OHATを使用して口腔内の実態調査を行ったので報告する。

# ORAL HEALTH ASSESSMENT TOOL (OHAT)

(Chalmers JM et al, 2005)

ID:		氏名:		評価日: / /		スコア					
項目		0=健全		1=やや不良		2=病的	スコア				
口唇		正常, 湿潤, ピンク		乾燥, ひび割れ, 口角の発赤		腫脹や腫瘍, 赤色斑, 白色斑, 潰瘍性出血, 口角からの出血, 潰瘍					
舌		正常, 湿潤, ピンク		不整, 亀裂, 発赤, 舌苔付着		赤色斑, 白色斑, 潰瘍, 腫脹					
歯肉・粘膜		正常, 湿潤, ピンク, 出血なし		乾燥, 光沢, 粗造, 発赤 部分的な(1-6歯分)腫脹 義歯下の一部潰瘍		腫脹, 出血(7歯分以上) 歯の動揺, 潰瘍 白色斑, 発赤, 圧痛					
唾液		湿潤 漿液性		乾燥, べたつく粘膜, 少量の唾液 口渇感若干あり		赤く干からびた状態 唾液はほぼなし, 粘性の高い唾液 口渇感あり					
残存歯 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		歯・歯根の う蝕または破折なし		3本以下の う蝕, 歯の破折, 残根, 咬耗		4本以上のう蝕, 歯の破折, 残根, 非常に強い咬耗 義歯使用無しで3本以下の残存歯					
義歯 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		正常 義歯, 人工歯の破折なし 普通に装着できる状態		一部位の義歯, 人工歯の破折 毎日1-2時間の装着のみ可能		二部位以上の義歯, 人工歯の破折 義歯紛失, 義歯不適合のため未装着 義歯接着剤が必要					
口腔清掃		口腔清掃状態良好 食渣, 歯石, プラークなし		1-2部位に 食渣, 歯石, プラークあり 若干口臭あり		多くの部位に 食渣, 歯石, プラークあり 強い口臭あり					
歯痛	 0	疼痛を示す言動的, 身体的な 兆候なし	 1	疼痛を示す言動的な兆候あり: 顔を引っ張らせる, 口唇を噛む 食事しない, 攻撃的になる	 2	疼痛を示す身体的な兆候あり: 頬, 歯肉の腫脹, 歯の破折, 潰瘍, 歯肉下腫瘍. 言動的な兆候もあり	 3	 4	 5		
歯科受診 ( 要 ・ 不要 )							合計				
再評価予定日 _____ / _____ / _____											

# OHATとOAGの比較

## OHAT評価項目

- ① 口唇
- ② 舌
- ③ 歯肉・粘膜
- ④ 唾液
- ⑤ 残存歯
- ⑥ 義歯
- ⑦ 口腔清掃
- ⑧ 歯痛

## OAG評価項目

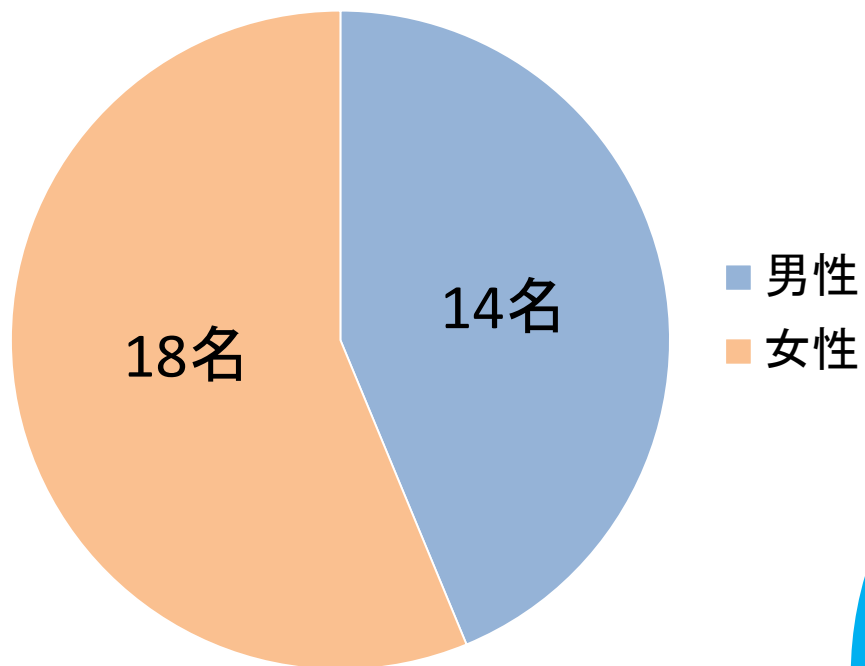
- ① 声
- ② 嚥下
- ③ 口唇
- ④ 舌
- ⑤ 唾液
- ⑥ 粘膜
- ⑦ 歯肉
- ⑧ 歯と義歯

# OHAT使用の利点

- うしょく歯や義歯の不適合など咀嚼機能に関連した項目が入っている
- 介護スタッフが行う口腔衛生プロトコールとして開発された。⇒**専門性が低い**
- 歯科専門職に頼らず、病棟スタッフ自らが行える⇒簡便である
- 項目別でもトータルでも評価することが可能
- **口腔状態を標準化**
- 多職種間での情報共有がスムーズにできる

# 結果

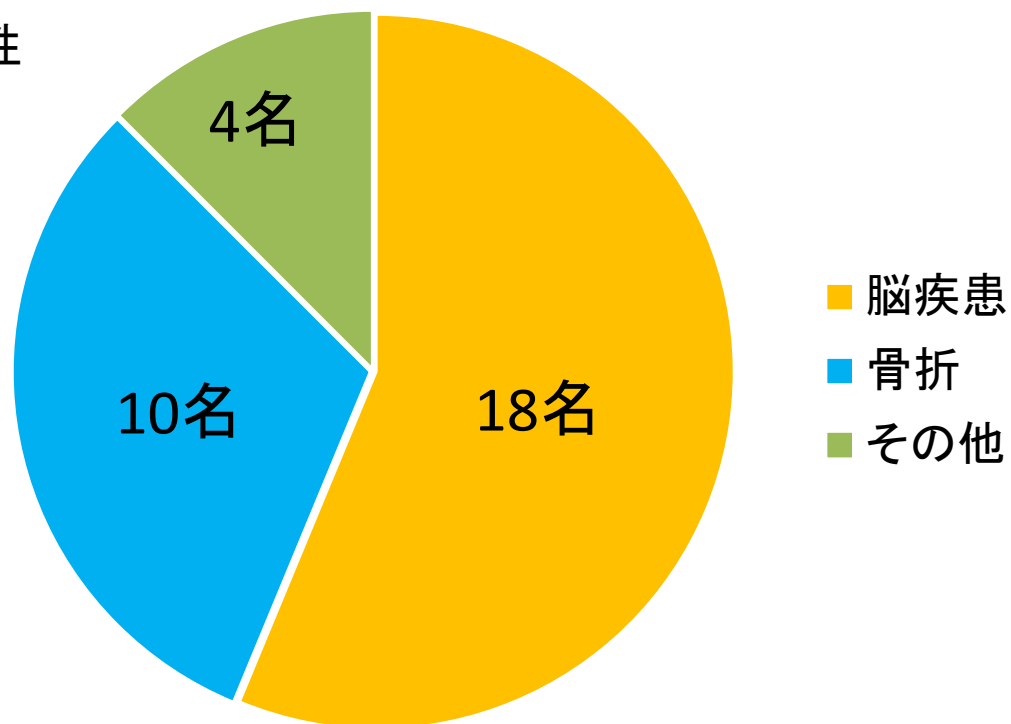
## 性別



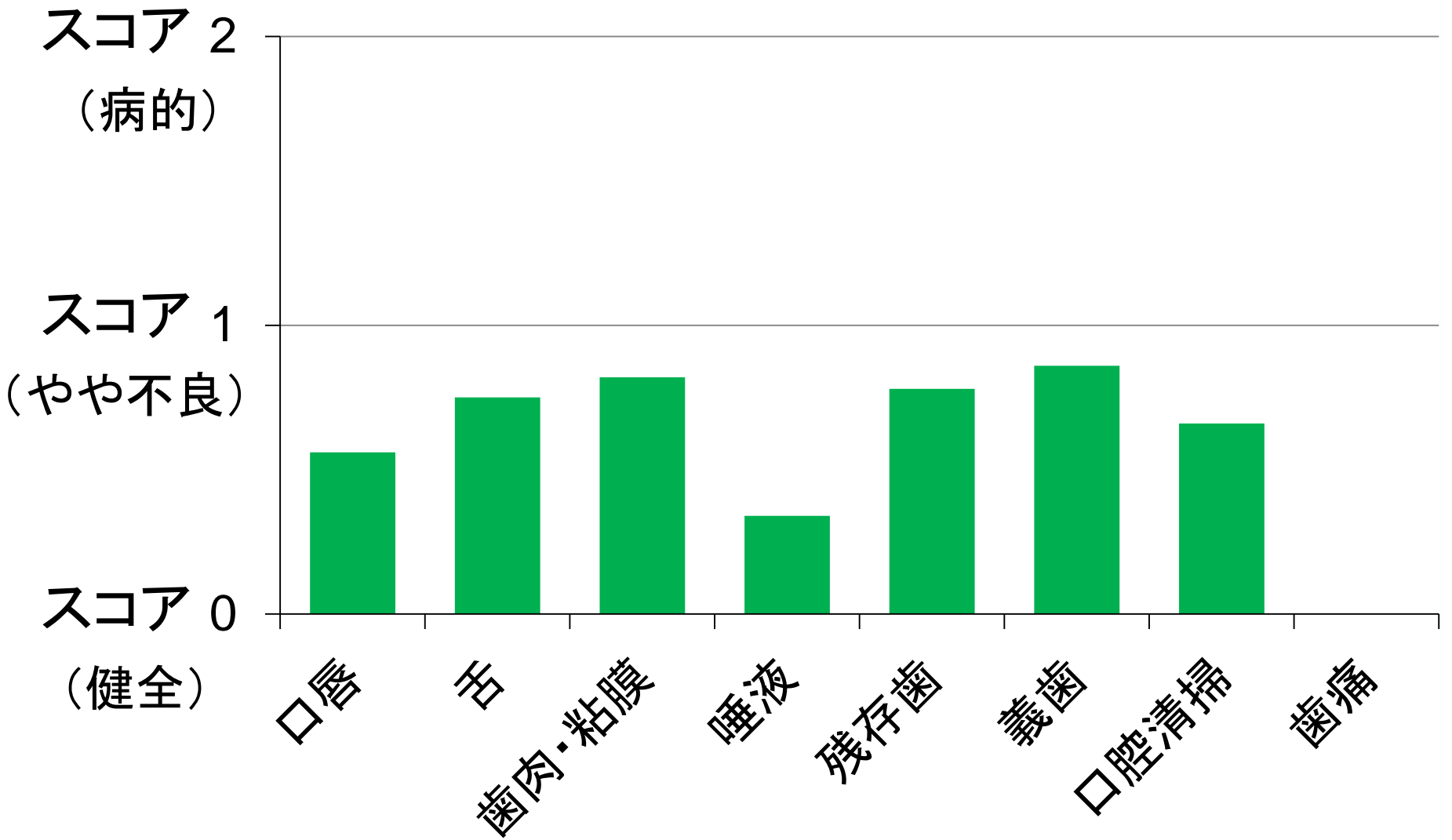
総数 32名

平均年齢 78.6±8.91歳

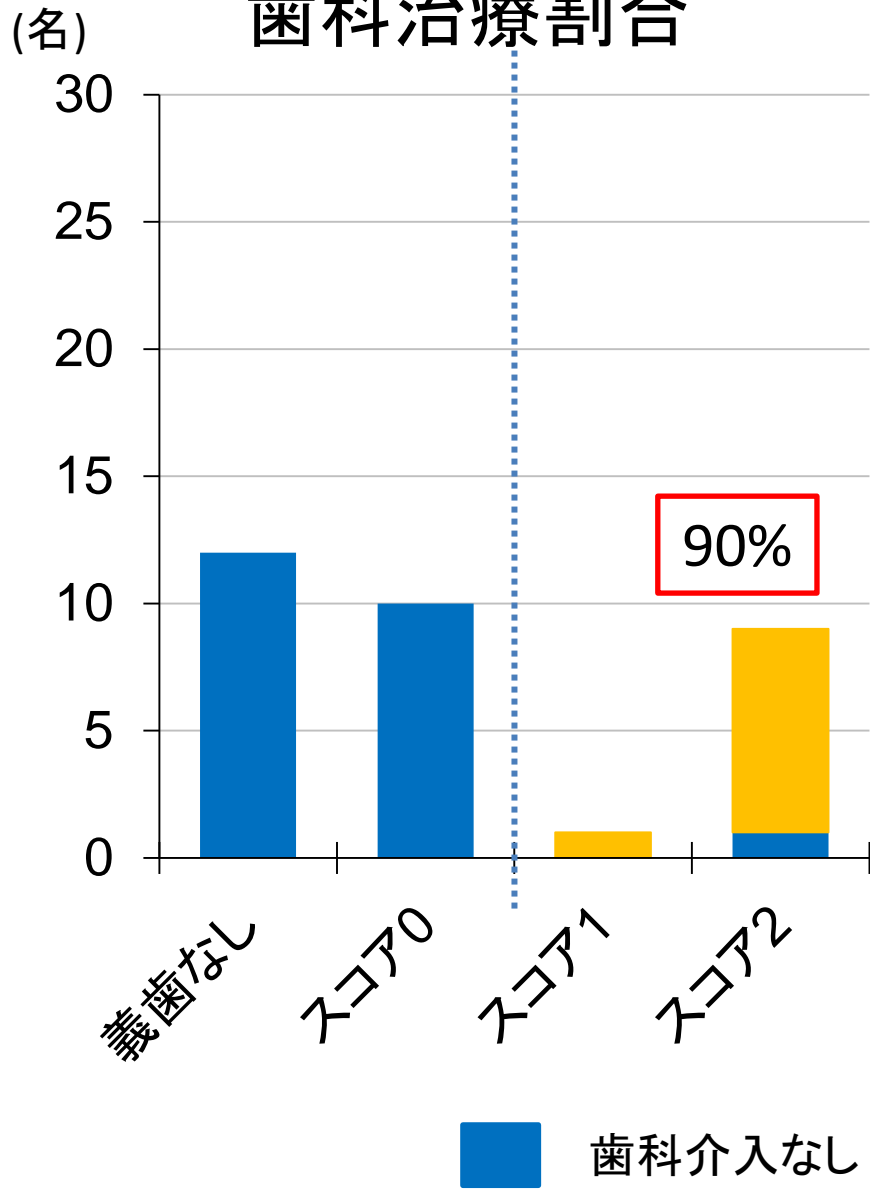
## 基礎疾患



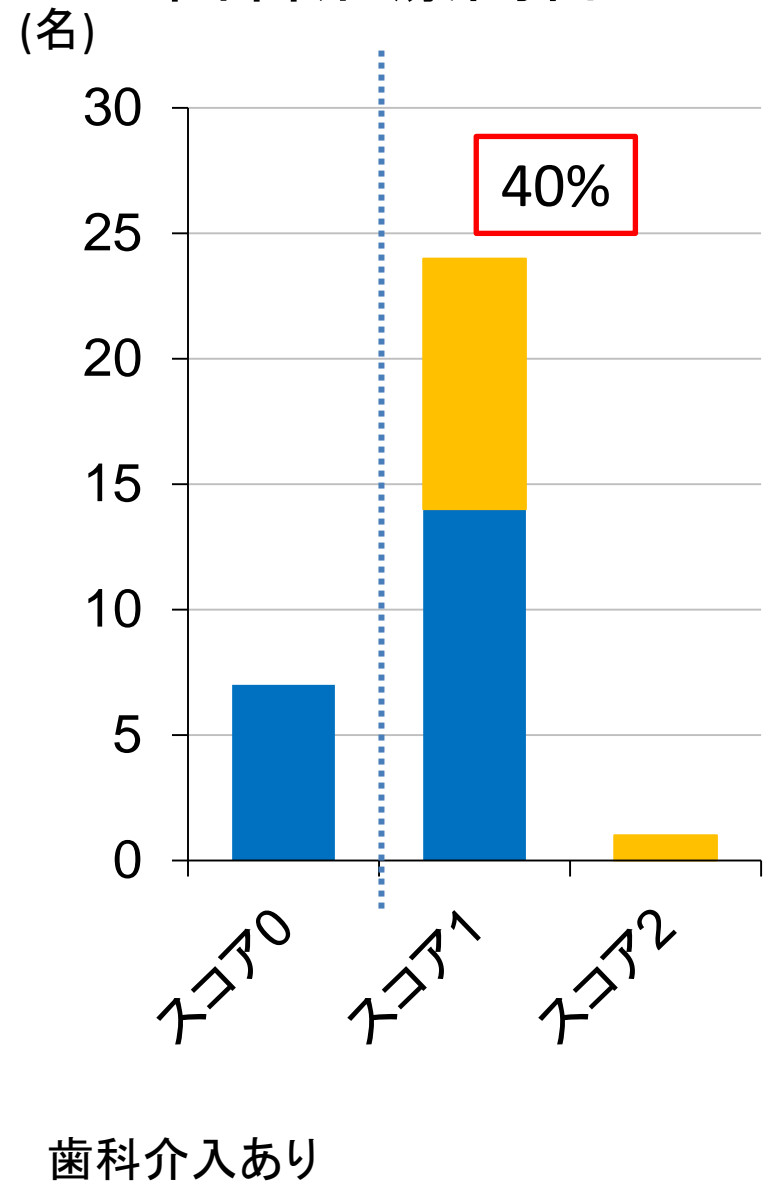
# OHAT項目別の平均点



### 義歯スコア別 歯科治療割合



### 歯肉・粘膜スコア別 歯科治療割合





# 歯周病に関連している全身疾患

心疾患

糖尿病



骨粗しょう症

誤嚥性肺炎

早産・低体重児出産

## OHAT 歯科依頼プロトコール表

	0	1	2
口 唇			
舌			
歯肉・粘膜			
唾 液			
残存歯			
義 歯			
口腔洗浄			
歯 痛			



歯科依頼

## まとめ

回復期リハは急性期から在宅や施設につなぐ場所である。口腔内をより良い状態で維持管理することは、摂食機能や栄養状態、コミュニケーション能力を向上するうえでも非常に重要であると考えられる。だからこそ病棟と歯科、多職種間で口腔評価を標準化していくことが今後の課題である。

今回はOHAT正式導入前の実態調査のため、在院日数に関わらず一斉調査を行った。今後は、入院時、1カ月後、退院時のアセスメント推移を調査、発表していきたいと考えている。